

峰山町 金刀比羅神社 略年表

年（西暦）	月日	内容
和銅 6	(713)	丹波国を分割して丹後国（加佐郡、与謝郡、丹波郡、竹野郡、熊野郡）
峰山町周辺は「丹後国丹波郡丹波郷」		大野郷、新治郷、丹波郷、周枳郷、三重郷、神戸郷、口枳郷
一色詮範、満範父子吉原城（権現山）		築城
天正 10	(1582)	細川藤孝・忠興親子が一色氏を滅ぼし、興元（忠興の弟）が吉原山祇山（権現山）入城、一色居城跡に陣屋を築城。『嶺山』と名付ける。
元和 8	(1622)	峯山藩立藩。初代藩主京極高通 一万3000石 吉原山城麓に御館を建て侍屋敷街をつくり『峯山町』と改める。
慶長 7	(1602)	「峯山」の名称は吉原山祇山（権現山）に祀られていた蔵王権現（金峯神社・吉野の金峯山蔵王権現に由来）から付けられた。
かせわら、ふたん町（不断町・札町か）、寺の谷、わだ（増長院南西一帯）、念仏寺谷、中間町（上町・織元辺りか）、といしか村の字名が、天保二年の「峯山古事記付録」に「慶長七年十月見知名寄帳」からの抜粋として遺る。		
享保 5	(1753)	絹屋佐平治 丹後ちりめん創始
宝暦 3	(1753)	不断町、横町（高札場から東の角まで）、上町、中町、下町、藪町、出町、田町、鉄砲町、寺坂町、古殿町
文化 4	(1807)	（「峯山明細記」に記載）他に峯山藩家中町の北谷町と表町（吉原）があった。 六代高久（白銀、泉）の背中合せに新町をつくる。

峰山町 金刀比羅神社 略年表

文化 8 (1811)	
文政 6 (1823)	
文政 9 (1826)	冬
文政 13 (1830)	2月29日
天保 3 (1832)	9月
慶応 4 (1868)	4月
明治 2 (1869)	
明治 2 (1869)	
明治 4 (1871)	
明治 4 (1871)	2月9日
明治 6 (1873)	5月23日
明治 9 (1876)	

七代京極高備たかまきにより金毘羅権現勧請

大鳥居完成。石工五箇村の定治郎と、佐野村の吉兵衛、罇留村の松助、同東助作

隨身門すいじんもんの建立と拝殿の建直しが許可となった。

木島神社勧請。ちりめん織り業者が藩の許可を得て、山城国葛野郡木嶋養蚕神社から養蚕の神を勧請

木島神社に猫の石像（左側）奉納。弘化三年（1846）右側の猫が奉納され「狛猫」として揃う。

太政官の示達により、神社から仏式の仏像その他仏具一切の取払いを寺院に命じた（神仏分離令）。

町名改革があり、不断町（旧札町）、上町、織元町（上中町）、室町（中町）、呉服町（下中町）、浪花町

（下町）、白銀町（出町）、泉町（白銀南組）、御旅町（出町）、堺町（田町）、富貴屋町（吹矢町）となり、

数年後に家中町の北町と表町が吉原町、南の家中町は古殿町となり、光明寺町と四軒町が加わった。

峯山藩校・敬業堂を敬業館に改称し一般子弟に開放。明治6峰山吉原小学校 明治20峰山尋常高等小学校

峰山県設置、10月豊岡県に編入

「金刀比羅神社」と改号（明治2 琴平神社改号を経て）

豊岡県から郷社に指定（2月10日 村社指定を経て）

この二年前から郷社昇格の運動を行なっていたが、当社は鎮座年月が浅く、峯山の家中北谷町は赤坂の昨岡神社の氏子で、その他は安村祇園稻荷の氏子なので、氏子を持たない当社の昇格は不可能とわかった。そこで町中六百余戸の氏子を金刀比羅に切り替え、嘆願を重ねた結果、周枳村の大宮売神社おおみやめの昇格指定を取り消し当社が郷社に指定された。奥丹三郡の郷社は一郡一社に定められていた。

豊岡県廃止京都府に編入

峰山町 金刀比羅神社 略年表

明治12	(1879)	
明治22	(1889)	
明治32	(1899)	
明治44	(1911)	10月10日
大正1	(1912)	
大正1	(1912)	
大正4	(1914)	
大正7	(1917)	
大正8	(1919)	8月25日
大正9	(1919)	
大正11	(1921)	
大正14	(1924)	11月3日

京都府の行政区画としての中郡が発足

町村制施行 峰山町と杉谷村が合併して「峰山町」発足 一五ヶ町合併

郡制施行

鎮守百年祭を挙行（一八〇段の石段設置）

中郡一班峰山案内発行

電灯（電力―大正6）

水道敷設（全国で二九番目 府下で四番目）明治39の計画から十年にして完成

総工費五三〇〇〇〇円のうち、町債三九五〇〇〇円と事業費二〇〇〇〇円を吉村伊助氏（明治40〜大正

5町長）が寄付、府補助金一〇〇〇〇円、郡補助金二五〇〇〇円 町費二五〇〇円

丹波村大字杉谷、吉原村大字安の一部（千歳）編入

府社に列せらる

曲折の多い小西川の市街地箇所を一直線に改修

府立工業学校（昭和二三年 峰山高等学校）

峰山駅開通（網野駅は昭和元年、昭和7年豊岡まで通じ宮津線となる）

午前十時鉄道省が主催し、駅前に設けられた大テントに一五〇〇〇名の関係者が集って祝賀式典挙行。新地の芸宜五十名が新作峰山節を披露し花を添えた。午後五時峰山町の主催で来賓五〇名が萬一樓につどい祝宴。

十月十日の金刀比羅神社祭礼も鉄道開通を祝って十一月三・四日に行われ、山車屋台が総出動、震災で失われる前の最後の雄姿となった。この様子は峰山線全通に収められている。

峰山町 金刀比羅神社 略年表

昭和 2 (1927)	3月7日
昭和 5 (1930)	
昭和 30 (1955)	
昭和 36 (1961)	10月
昭和 39 (1964)	
平成 4 (1992)	10月
平成 16 (2004)	4月1日
平成 23 (2011)	10月

北丹後地震 推定M7.4 (阪神淡路大震災はM7.3)

峰山町 一、〇一二戸中 全焼八四九 全壊一五七 半壊二七 半焼二 (計一〇〇%)

人口 四、五八五名中 死亡一一〇三名 (二四%) 重軽傷五三〇名

午後六時二七分の激震から 一五分で市中四一箇所から火の手が上がり、一八時間続いた。稀な豪雪に見舞われており、一mを超える残雪があったが、当日は快晴で暖かい日だった。

社殿は全壊 府営の仮神殿に御神体を奉安

本殿、拝殿、社務所 再建竣工 (用材は阿里山檜材 境内末社などは昭和8再建)

町村合併 一町五ヶ村 (峰山町・吉原村・五箇村・新山村・丹波村) 合併 (長岡は昭和31)

御鎮座百五十年大祭

峰山郷土史発行

御鎮座百八十年大祭

京丹後市発足 六町合併

御鎮座二百年大祭 四月十日式年大祭 十月十日記念例祭奉祝行事